

会議記録

会議の名称	第4次熊谷市地域福祉計画・熊谷市地域福祉活動計画 第1回推進委員会
開催日時	令和5年8月17日(木) 午後1時30分から3時55分まで
開催場所	熊谷市立商工会館 大ホール
出席者	委員12名 市長、熊谷市社会福祉協議会会長、事務局7名
傍聴人	0名
問い合わせ先 (所管課)	熊谷市福祉部福祉総務課 電話 048-524-1133 (直通)
内容	<p>【議事1】委員長・副委員長の選出について 【内 容】委員長 新井委員</p> <p>【議事2】副委員長の選出について 【内 容】副委員長 腰塚委員</p> <p>【議事3】第4次計画の概要について 【内 容】第4次計画の概要について説明し、質疑応答及び意見交換を行った。</p> <p>【主な質疑・意見】</p> <p>(質 疑) 外国籍の人も福祉の対象になると思うが、外国籍の児童数は把握しているか。 (回 答) 後日調査の上、回答する。</p> <p>(質 疑) 長寿会では、「輪投げ」「ボッチャ」などのゲーム開催を通じて、高齢者の社会参加を促している。第4次計画では、社会参加を促す具体的な手法や取組はあるか。 (回 答) 現在、公民館で行っている生涯学習活動に引き続き取り組んでいく。高齢者や子育て中の親子を対象としたサロンはコロナ禍で取組が減少したが、現在は約50団体が実施している。支援を通じて、実施団体の増加を図りたい。</p> <p>(意 見) 健康な高齢者よりも、自宅に籠っている高齢者に焦点を当てて、孤立させない仕組みづくりをするべきである。</p> <p>(意 見) 社会参加という観点で情報提供。平成28年度から実施している「ニャオざね元気体操」という事業がある。高</p>

齢者の「健康」「集まりの場」「地域の目を養う」ことが目的である。市内約50か所で開催されており、広がりを見せている。ただし、新型コロナウイルス感染症をきっかけに中止となってしまった団体や、新しい参加者が入ってこないという課題がある。

(意見) 5年前から「ニャオざね元気体操サポーター」をしている。井戸端会議的に楽しんでいるが、普段参加している方が来ないと、その日のうちに安否確認を参加者同士で行っている。高齢者はこういったつながりがあるが、子ども会が停滞しているようである。子どもの数も減少し、子どもが集まれる場所も減少している。子ども会の好事例の発信や行政等が支援を行うと良いのではないか。

(意見) 普段、登下校する子どもの見守り活動をしている。昔は公園で遊ぶ子どもが多くいたが、親が忙しいからか、今はあまり見かけない。長寿会で子どもと遊ぶ機会を設けており、こういった取組を事例として長寿会の役員会で広めている。

(意見) 世代間交流は大切である。地元ではキーパーソンがおり、地域住民の交流が活発だが、地域によって取り組み状況に格差がある。事例を情報共有していけば、より良い方向に向かうのではないか。

(意見) 地元では、「校区連絡会」「青少年健全育成秦支部」が主催する「秦っ子祭り」という地域住民の交流会がある。新型コロナウイルス感染症流行前には、公民館にお泊まりをし、映画や花火を楽しむという取組みをしていた。高齢者が主体となって運営しているが、過去の祭りに参加した中学・高校生のOB・OGが手伝いに来ている。民生委員が昔遊びを小学生に教えたり、郷土料理のすいとんなどの作り方を教えたりしている。小学校単位での交流が基本となっている。

(質疑) 地元では、児童の登下校時に、要所で見守り活動をしている方がいる。全市で取り組んでいるのか。

(回答) 「スクールガード」は、地元の方の協力のもと、全市で取り組んでいる。また、警察から委嘱されている「交通指導員」も見守り活動をしている。

(意見) 長寿会には、約6,000人が加盟しているが、「登下校時の児童の見守り活動」を共通の目標としている。ただし、活動状況を全て把握しているわけではない。活動を通して、道路の危険箇所を発見し、行政に報告したりし

て、事故防止に努めている。

【議事4】 アンケート調査結果について

【内 容】 報告のとおり承認された。

【主な質疑・意見】

(意 見) 自分も団体の役員を担っているが、団体アンケート結果の「活動する上で困っていること」の上位項目には、納得させられた。当団体では、補助金が削除されてしまい、資金繰りが厳しい状況である。活発な団体活動をする上で、資金面で支援を検討願いたい。また、認知症高齢者の介護者への支援について、検討いただきたい。

(質 疑) 0～3歳の親子を対象とした支援拠点を運営している。本市には転勤で移住される方が多く、地域に相談相手のいない親も多い。そんな親の子育ての悩みを聞くことで、虐待防止につなげている。高齢者でも問題として挙がっていたが、自宅に籠っている親子を外出させることが難しい状況である。対策として、ポータルサイトの運営を行っている。本市で出産した方については、支援拠点の御案内はできるが、転勤等で移住された方に情報が届きにくいことが実情である。今後もつながりの創出に努められたい。

また、アンケートで子育て関連の項目が少ないように思える。

(回 答) 計画でも位置付けているが、子育て世代包括支援センター運営を通じて子育てのサポートを行っていく。事業周知方法については、更なる検討をしていく。

(意 見) 就学前の子を持つ親が孤立しないようにすることが大切である。

(質 疑) 第4次計画は、第3次計画の事業進捗状況の結果を反映しているのか。

(回 答) 第1次、第2次計画では、事業進捗状況の報告はしておらず、計画策定前にまとめて行っていた。第3次計画については、毎年委員に進捗状況の報告をし、事業の見直しを行っている。第4次計画は、第3次計画の結果を基に策定する。

(質 疑) 災害時避難行動要支援名簿の個別計画の作成が努力義務となっているかと思うが、各自治体で作成が思うように進まないと聞く。アンケート結果では、「避難支援に協力したい」と回答している方が9割を占めているが、その方々と「要支援者」とのマッチングシステムが構築さ

れると良いのでは。

(回 答) 個別計画の策定はまだまだ進んでいないのが実情である。避難支援に協力いただける方が地域にいないことも要因の一つであるため、「避難に協力したい」という人々の思いを上手くつなげていきたい。今後、制度設計を進めていくにあたり、どのような形が良いか検討し、計画の中に反映させていきたい。

(質 疑) 赤十字奉仕団と民生委員・児童委員を兼任している。自治会も含め、3団体のつながりはあるのか。

(回 答) 3団体をつなぐ組織は無い。団体同士、連携しながら活動いただくことが理想である。ネットワークづくりを意識した計画づくりを進めていく。

(質 疑) 2019年の大雨災害をきっかけとし、要支援者(障害者)の避難をどうするかという話が出た。個人情報取扱上の観点から対応は難しいということであったが、市、社会福祉協議会はどう手助けすればよいか検討してほしい。

(回 答) 避難行動要支援者制度は市が主体であるが、個別避難計画の作成、運用方法については、課題がある。

【議題5】第3次計画取組状況について

【内 容】第3次計画の取組状況について説明し、質疑応答及び意見交換を行った。

【主な質疑・意見】

(質 疑) 当団体は市から障害者相談事業を受けているが、計画の達成状況をどのように評価しているか。次に知的障害者の法定後見人の選任が難しい状況から、後見人制度の充実を図ってもらいたい。次に地域移行が進む中で重度障害者の受入れが困難な状況を踏まえ、福祉サービスの充実をどう図っていくのか。

(回 答) 計画の取組の評価は、関係課が行っている。後見人制度は、第4次計画に成年後見制度利用促進計画を含めて策定することで、高齢者だけでなく障害者を含めた支援の充実を図っていく。地域への移行の課題は、関係課と情報共有しながら進めていく。

(質 疑) 地元の民生委員・児童委員の区割りが分からず、担当の委員が分からない。

(回 答) 窓口に来ていただければ区割りをお見せできるほか、お電話等で住所をお知らせいただければ、担当の委員をお伝えできる。

【議題6】今後のスケジュールについて

【内 容】提案どおり了承された。